

第 四 問

(満点 100 点)

第三問とあわせ
時 間 2 時間

次の各問に答えなさい。

問 1 退職給付会計に関する次の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) 基礎率の変更に基づく数理計算上の差異を一時的費用として認識しない根拠を、説明しなさい。
- (2) 数理計算上の差異の取り扱いに関する回廊アプローチと重要性基準について、説明しなさい。
- (3) 退職給付に充てるための資産を企業内部で運用する場合と企業外部に基金を設けて運用する場合は、貸借対照表と損益計算書にどのような差異が生じるか、説明しなさい。

問 2 商品販売に関する次の(1)及び(2)に答えなさい。

- (1) 売上値引、売上割戻、売上割引の会計上の性格について、述べなさい。
- (2) A社は自社のチケットを販売代理店を通じて販売している。その際、代理店は競合他社との顧客獲得競争を勘案しながら適宜に定価から割引いた金額でチケットを販売し、販売枚数1枚につき、実際の販売価格に一定率を乗じた金額をA社から販売報奨金として受け取っている。この場合のA社における販売報奨金の会計処理として2つの方法が考えられる。それぞれの方法を、その根拠も付して説明しなさい。